

ご挨拶



合同研究会会長 垣花 泰之

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 救急・集中治療医学分野

この度、歴史ある第28回医用近赤外線分光法研究会と、第26回酸素ダイナミクス研究会を鹿児島で同時開催させていただくことになり、大変光栄に存じます。2022年10月1日（土曜日）、10月2日（日曜日）に、鹿児島大学医学部鶴陵会館で開催いたします。

私（垣花）と、近赤外線分光法、そして酸素ダイナミクスの繋がりについて少しお話ししたいと思います。私は1989年4月～1991年3月までの2年間、北海道大学応用電気研究所生体物理部門の田村 守先生のもとで、大学院生として近赤外線分光法の研究を行いました。その研究結果で学位を取得し、今では私のライフワークの一つになっています。当時、田村 守先生は、大学院生の私にいつも次のようなことを言っていました。「垣花君、35億年の進化から考えると、やはり生体に最も重要なのは酸素だよ。疾病や複雑な病態も最後は酸素に繋がるんだよ。我々は酸素についてもっと知る必要がある。酸素をもっと理解すべきだよ」。実は、酸素ダイナミクス研究会の初代会長は田村 守先生です。酸素をいろいろな角度からアプローチし紐解いていくことが、酸素ダイナミクス研究会の原点にあるのだと思います。このように、私にとって関係の深いこの2つの研究会（医用近赤外線分光法研究会、酸素ダイナミクス研究会）を、ここ鹿児島の地で同時に開催する機会を頂き、まことに恐悦至極でございます。

今回の研究会は、1つの特別講演、4つのシンポジウム、そして一般口演で構成されています。特別講演はカナダのライアソン大学理学部物理学科の教授であるAlexandre Douplik氏に光を使った「鏡面反射血管画像法」に関する講演をお願い致しました。シンポジウムに関しては、(1)組織微小循環のイメージングと解析・操作（基礎）、(2)NIRSによる脳、筋、褐色脂肪測定、(3)運動と低酸素、(4)NIRSによる臨床脳酸素モニターを企画しています。基礎研究や臨床研究で得られた「近赤外光」と「酸素」に関する最新の話が聞けると思いますし、新しい研究のヒントが得られると思います。

この2年間は新型コロナウイルス感染症のパンデミックのため、多くの研究会が中止となりました。しかし、我々は今後withコロナで社会生活を進めていかなければなりません。そこで、今回は鹿児島での現地開催といたしました。一人でも多くの皆様に会場までお越し頂き、WEBでは味わえない対面での熱いディスカッションを大いに期待しています。2022年10月の研究会開催日には、新型コロナウイルス感染症も落ち着き、街も活気に満ち、大いにお楽しみ頂けると期待しております。医用近赤外線分光法研究会、酸素ダイナミクス研究会は、「近赤外光」と「酸素」をキーワードに、最新の知識を学ぶ貴重な機会です。参加される方々は、基礎研究/実臨床に関与、あるいは今回の企画に興味を持たれた方々です。是非とも意見交換や情報共有をしていただき、お互い研鑽し、交流を深め、実りの多い研究会とすることができそうです。皆様のご協力をお願い申し上げます。